

## 亀岡市循環型社会推進審議会 会議記録

会議名	第52回会議
日時	令和4年11月29日(火)午後3時30分～5時30分
場所	亀岡市役所 3階 302・303会議室
出席委員	13名のうち8名
事務局	10名
傍聴	0名

### 次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 審議事項
  - (1)一般廃棄物処理基本計画の策定(改定)について(その2)
    - ①亀岡市生活排水処理基本計画
    - ②亀岡市ごみ処理基本計画
- 4 連絡事項
  - (1)次回の審議会について
- 5 その他
- 6 閉会

## 会 議 の 概 要

### ■事務局

定刻となりましたので、只今から第52回亀岡市循環型社会推進審議会を始めさせていただきます。

皆様には、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

開会にあたり、会長より挨拶を頂きます。会長、宜しくお願い致します。

### ■(会長挨拶)

### ■事務局

当審議会の運営につきましては、審議会条例施行規則第5条第2項により、委員の半数以上の出席がなければ会議が開催できないと規定されています。

本日は、委員13名中8名の出席をいただいております。半数を超え、本会が成立していただきますことをご報告致します。

なお、本日は本市が計画策定業務を委託している事業者がオブザーバーとして参加しております。

続きまして、お手元資料の確認をさせていただきます。

#### 会議次第

資料 1-1 第6次亀岡市生活排水処理基本計画(素案)

資料 1-2 スライド 亀岡市生活排水処理基本計画の素案について

資料 2-1 スライド 亀岡市ごみ処理基本計画の基本理念及び基本方針について

資料 2-2 現行の亀岡市ごみ処理基本計画の抜粋

資料 2-3 亀岡市食品ロス削減推進計画(素案)

でございますが、資料の不足はございませんか。

本来は資料を事前に送付すべきでしたが、都合により当日配布になりましたこと、お詫び申し上げます。

それでは、亀岡市循環型社会推進条例施行規則第5条第1項に基づき、会長に議事進行をお願いしたいと存じます。会長、よろしく申し上げます。

### ■会長

それでは、次第に沿って進行させていただきます。

「(1)一般廃棄物処理基本計画の策定(改定)について(その2)」の「①亀岡市生活排水処理基本計画」について、事務局より説明をお願いします。

### ■事務局

それでは、亀岡市生活排水処理基本計画について、ご説明申し上げます。スライド

をご覧ください。

－資料を用いて、説明－

事務局からの説明は以上でございます。

■会長

只今の説明について、ご質問、ご意見はございませんか。

■会長

生活排水処理率 94.2%の残りはどういった世帯でしょうか。

■事務局

まず下水の水洗化率が 100%になっていない分、下水のほうの管轄になりますが、下水への接続は 100%を目指すところと、浄化槽の未設置のところについても 100%を目指すということになります。

■会長

端的にいいますと、汲み取りを利用しているご家庭ということでしょうか。

■事務局

その通りです。

■会長

また何か進展がありましたら報告をよろしくお願ひします。

では続きまして、「②亀岡市ごみ処理基本計画」について、食品ロスの削減推進計画も含めて事務局から説明をお願いします。

■事務局

それでは、亀岡市ごみ処理基本計画について、ご説明申し上げます。スライドをご覧ください。

－資料を用いて、説明－

事務局からの説明は以上でございます。

■会長

只今の説明について、ご質問、ご意見はございませんか。

■委員

基本理念に関するところで、「サーキュラーエコノミー」とおっしゃったが、基本理念はわかりやすい言葉に言い換えたほうがいいと思います。

■会長

私からお答えします。むしろサーキュラーエコノミーと書くのが政府でも使われていますので、日本語訳は循環経済です。括弧をして循環経済と入れますか。

■委員

そのほうがいいですね。私は初めて聞いた言葉なので。

5行目の「廃棄物処理部門から」という言葉もありますが、廃棄物は捨てるものだというものでいけば、ごみは再利用するという理念が今回あるのであれば、「部門」という言葉が引っかかりました。

また、基本方針1の(2)の②にある「保津川」という言葉は、我々は下流側というイメージがあり、我々には桂川など色んな呼び方があるので、上流にいると「保津川」という言い方をしないと思うんです。「桂川」という呼び方もあるのではないかと思います。絶対ということではないですが、亀岡全体では桂川という言い方で捉えていると思います。

■会長

保津川と大堰川の併記でいかがでしょうか。桂川という言い方は亀岡では歴史的には使っていないんです。桂川は京都の桂あたりでの呼び方で、それがごく最近に国が統一して使うようになりました。例えば JR の鉄橋では、保津川橋梁と書いてあります。上のほうへ行くと、何か所かで桂川をまたいで、大堰川橋梁と書いてあるところもあります。大井町という地名もあります。

■委員

一地方ではないということが伝わる書き方であればよいと思います。

■事務局

例えばアスタリスクを付けて欄外にサーキュラーエコノミーについては説明を加え、保津川についても桂川や大堰川と呼ぶ空気がありますので補助的に説明を書くのはいかがでしょうか。

■会長

せっかくですし、亀岡での昔からの呼び方、例えば宇津根から下は保津川で、宇津根より上が大堰川、桂川というはごく最近、行政用語として使われているだけですので、

欄外では、川の上流地域で住んでいらっしゃる方の呼び名がありますので、併記でいかがでしょうか。

■委員

分かる形にしていれば結構です。

■会長

順番はどうでしょうか。流れの順番か。

■委員

地域の感覚の問題ですね。

■事務局

ちなみに、環境教育のメニューとして、千代川川の駅からラフティングを、保津川では川下りを取り入れています。上流から「大堰川・保津川」と呼んではいかがでしょうか。

■委員

いいですね。

■事務局

「廃棄物処理部門」についてはいかがでしょうか。

■会長

ごみをごみにしているのは人間の意識ですよ。サーキュラーエコノミーを目指すのであれば、ごみが存在しない世界ですよ。そこを目指すのであれば、ごみ処理ではなく、経済・福祉・教育、多様な施策が連携した取組を図りますという表現はいかがでしょうか。

■事務局

これまでは出てきたごみをなんとかするというをやってきましたが、最近リユース事業を強化してイベントもしていますが、コロナ禍もあり、まだ使えるものは、それを必要としている人がいたりします。無料で手に入るものがあると経済的に助けられるということもわかってきたので、廃棄物処理をすることで色んな方面への波及ができるので「環境から福祉・教育」という表現でいかがでしょうか。

■委員

はい。

■会長

「横展開を図ります」は役所の組織がわかっていたらわかるんですが、役所の中の感覚ですよ。「図ります」があるとできなくてもいいやという感じが見え隠れしますの

■事務局

「展開します」に変えます。

■委員

あまり言いたくないですが、基本理念のところ、違和感があるのが「ごみの概念を変える」という言葉です。概念というものが哲学的というか、抽象的で僕はよくわかりませんが、概念って変えられるものなのか？と書いておいてね。別の言葉で考え方、生活や行動、事業活動を変えてもらうと書いたもうちょっとやさしい言葉にしたほうがいいと個人的には思います。これも注釈がないと、みんなが同じように捉えられないと思います。

■会長

今日ご欠席の委員からメールをいただいている、今のところに関係すると思ったので、読み上げます。

「現在、亀岡市の環境基本計画推進協議会で、亀岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の名称が硬いので、環境政策課に新鮮な愛称を求めています。亀岡市はプラごみゼロで内外から注目を集めていますし、廃棄物削減は温暖化対策の柱でもありますから、それを強調したほうが亀岡のPRにつながるという意見もあります。私もそのような思いで、亀岡の循環型社会に思いを込めた愛称がいいと思います。私の一案として「亀岡ゼロプロジェクト（ゼロエミッション、ゼロカーボン）」を愛称の一例として挙げたいと思います。脱カーボンだけでなく、プラごみゼロやフードロスゼロなど、ゼロのロゴマークを活かしてほしいです」と書いてくださっています。

ごみ処理の計画なので、単純な言葉でごみゼロというのはよく聞きますので、「ごみの概念を変える」というのは、「ごみゼロを目指して」のほうが、ベタですけど、そういうことをおっしゃりたいのかなと思います。

■事務局

ごみゼロを目指すということは、ごみの既成概念を変える、ごみを出す自身を変えるということになり、意味は同じなので、わかりやすく、浸透しやすいと思いました。

どうしても廃棄物処理の立場なので、廃棄物になったものをどう処理するかを考えるんですが、廃棄物になる前に、ごみにならないようにすることもできますよね。無駄に処理するものはない世界を目指しましょうという意味で、「ごみゼロ」はいいかもしれま

せんね。

■委員

「ごみゼロ」は「ごみの概念を変える」とは確かに概念は一緒かもしれませんが、「プラごみゼロ」とかと重複があるというか、「ごみの概念を変える」というのとは大人が聞くと違うものだと思います。「ごみゼロ」というと、ごみを出さない、少なくすることだと普通に思われてしまいそうです。「ごみの概念を変える」というと、「ごみをつくらないということなんだな、ごみと呼ぶのをやめて、宝と呼ぶんだな」という、ごみ自体が出なくなる行動をしようということかなと思います。

■事務局

では、キャッチコピーの下に、詳しい説明を入れて、注釈的に入れましょうか。

■委員

ごみを漢字で「護美」と書いてはいかがでしょうか。概念を変えているというのが伝わるとおもいます。

■委員

難しいですね、これ。

Aの人のごみがBの人のごみになるとは限りませんよね。サイズアウトになった服でも子育て世代は服をまわしますし、結局そういうことですよ。リサイクルで筆箱やかばんをつくる方もいらっしゃいますが、そういうことをどう伝えたらいいだろうと思います。難しいですね。それって本当にごみ？ということですよ。

■会長

たしかに、「ごみゼロ」はある意味手あかのついた言葉ですよ。

■委員

ゼロにもっていくことはたしかにいいことですよ。プラごみゼロとか。

■会長

「それって」って問いかけていますね。なかなか基本理念という堅苦しいところに、くだけた言葉が入っているのはないので、むしろ入れてみるのもひとつの手かもしれないですね。

■委員

子どもは「概念ってなに？」って思いますよね。

■会長

小学校で習う漢字じゃないですね。「概念を変える」をだれでもわかる言い方にして  
くれていますね。

■事務局

見方を変えてくれていますね。「それって本当にごみ？」はごみの概念を違う方向か  
らみて変えていますよね。

■委員

そして副題のところを、ごみの概念を変えていこう、見方を変えていこうという内容  
にすればよいでしょうか。

■会長

基本理念の下から 3 行目ですね。ごみに対する見方。

■事務局

それか、先ほどおっしゃっていただいたように A さんにとってのごみは B さんのごみ  
じゃないということを書いてもよいでしょうか。

■会長

「ごみに対する意識変革を促すことで、ごみの概念を変えていく」っておかしいです  
よね。同じことを 2 回言ってますよね。「ごみに対する意識変革を促すことで」はなくてい  
いんじゃないですかね。それか、「ごみの見方を変えて」を前に「こうした施策の展開によ  
り、ごみの見方を変えて」で、ずっとそこから「促すことで」までを削除してもらって、で、  
点ですね、で「力をあわせて」「資源循環による地域活性化」まで削除していただいて、  
これで重なっていた部分を。

「など」「など」がまた続いているので、「好循環につなげて」でいいんじゃないですか。  
「つなげ」、点、で「持続可能な」。これでどうでしょうか。だいぶすっきりしました。よろし  
いでしょうか。「それって本当にごみ？」。たしかに、ごみには漢字もカタカナもあります  
が、ひらがなで書くと子どもも読めますし、カタカナをあてるときのイメージと漢字をあて  
るイメージも違いますし、それって本当に？という感じがしますね。

■委員

基本理念の「かめおか」はひらがなで、基本方針 1 の「亀岡」が漢字なのは、意味が  
ありますか。「ふるさと亀岡」はなにかで使われている文言なんですか。

■事務局

統一します。もともと前回の現行の計画では使われていたと思うんですけど、統一

するために変えても大丈夫だと思います。

■会長

基本方針 3(5)③について事務局から簡単に説明いただけますか。

■事務局

ごみ処理に関して、桜塚クリーンセンターでは燃やし、エコトピア亀岡で埋め立てています。たくさんのごみを減らせていくと、クリーンセンターを今の形で更新しなくても、少し小さくするとか、南丹市と広域で処理するように府から勧められているんですが、今と違った形で予算を組んで処理できないか検討しています。エコトピア亀岡で埋め立てるものは、業者が選別した上で埋め立てていますが、量が減ってきています。量が減ってくると、亀岡市域以外での資源化も可能になってきます。

■会長

クリーンセンターの建て替えの費用はどれくらいでしょうか。

■事務局

施設規模によりますが、100 億円くらいはかかると思われます。改修であれば、20～30 億円だと思います。建設してから年数が経っていますので、更新するべきか改修すべきかは判断が分かれるところだと思います。

■会長

例えば、先日のネットニュースで見ましたが、神奈川県鎌倉市はプラごみゼロ宣言を初めて宣言した市町村で、今ある焼却処分場が寿命を迎えたら更新をしないと言っておられます。いまの焼却施設がもたないという一方で、みなさんの意識も変えていかないと財政的にお金がないということになります。

■委員

基本方針 3 の(4)の③の「廃棄物のエネルギー化」とはどのようなことを考えておられますか。

■事務局

生ごみをガス化して発電することを、下水のし尿と汚泥と同じ方法で、再生エネルギーとして検討しています。

■委員

②(生ごみのバイオガス発電に向けた事業化の検討)と一緒にですか。

■事務局

③では、生ごみ以外のその他のごみについても、技術は日進月歩で進んでいるので、取り入れていきたいと思っています。関係する企業からご提案は色々ご提案をいただいています。

■会長

例えば、コットンからアルコールを作って飛行機の燃料をつくる技術もあるそうです。とにかく亀岡市からごみを出さないということですね。

■事務局

この計画と桜塚クリーンセンターの更新時期が重なってくるので、更新にかかる費用を別のところにまわすこともこの計画では頭出ししているということです。

■会長

ごみ処理にかかる費用が教育や福祉にまわせることはすごく重要なことですね。どこかに明記したほうがよいのではないのでしょうか。明らかに減らせられるターゲットとなるコストがあるので、これをこれだけがんばればこういうことができますよ、と書いてはいかがでしょうか。

■委員

基本方針3の(5)の③はここにあるべきなのではないでしょうか。多様な資源化システムという方針に対し、桜塚クリーンセンターやエコトピア亀岡の更新については、基本方針4にあったほうがふさわしいのではないのでしょうか。

■事務局

場所については事務局で再検討したいと思います。基本方針3を全部すると(5)に繋がってくるので、会長がおっしゃった明記事項も含めて検討していきます。

資源化システムがメインになるとは考えているので、ストーリーの部分はどう表現したらよいか考えていきたいと思います。

■会長

基本方針4の(1)で①の項目が何のためにあるのかがわからないと思います。収集運搬業務を滞りなく提供することで快適な生活を送ることができるということだと思います。今の書き方では公益法人が重要なようにも読めます。民間委託や直営でもそれぞれ問題があって公益法人にするのがベストだという背景があると思いますから、単純に収集運搬をしっかりとっていくということを書いていけばいいと思います。

■委員

安全・安心な収集・運搬の継続維持、という書き方でいいと思います。その続きについても、生活系ごみ、事業系ごみと書く必要はないと思います。

#### ■会長

PDCA サイクルをまわしていく上で、最後に起承転結の結があるように、評価が必要ですね。リサイクル率といった評価だと、前回の審議会でも言いましたが、リサイクルしにくいごみが残る可能性があります。市民の幸福のための計画だということを考えると、基本理念の最後の部分は「市民の幸福度を向上する」という表現を入れて、評価項目に加えてはいかがでしょうか。ちゃんといつもごみ収集に来てくれるとか、ごみが資源化されて誇りに思うとか、亀岡市の知名度が上がるといったことが幸福度につながり、検証もできることですので。やせ我慢しないといけないと思う方が多いです。

#### ■委員

計画を読むと、わざとわかりにくいようにさせるために難しく書いているのかと思います。亀岡市を人に例えて、健康診断をしてあと何年放っておいたらどうなるといったように、亀岡市の健康指数を出すとか、何年にだめになるという表現があるとわかりやすいのではないのでしょうか。こういう会議に出席するまで知らないことばかりでした。

#### ■会長

危機感をあおるのではなく、危機感を共有することが大事ですね。

#### ■事務局

できるだけごみを分別して出ないようにしないと、お金をかければなんとかなりますが、そんなことにお金をかけるんですか？それならばお金がかからないように市民と何とかしたいと考えています。市民にわかりやすい書き方をしようと工夫は進めているとことなので、ぜひトライさせていただきます。

#### ■委員

そのときに、目指しているものを実現していくと、燃やすしかないごみは限りなくなっていくますよね。そう考えると、桜塚クリーンセンターはオーバースペックになりますよね。もっと小型化してもっと安いものでできるというところまで踏み込んでいけばいいと思います。

#### ■会長

基本方針2について質問です。サンガの試合があるときにリユース食器を使っていたりして、大きなイベントから小さなイベントまで、イベントで出るごみには訴求力があると思うので明記してはいかがでしょうか。イベントごみの削減の取組、になるでしょうか。Jリーグの試合は、ほかの市町も情報発信の場にされています。

■事務局

考えます。

■会長

食品ロスについても 20 億円という衝撃の結果が出ていますが、何をしていくかはこれから検討するということですね。

■委員

この間大阪で入ったラーメン屋が、汁もすべて飲んで底の絵をみせたらポイントをくれるというサービスをしていました。

■会長

食品ロスを捨てているポスターは町内会の掲示板に貼るなどしてはいかがでしょうか。

■委員

今度、各町内会をまわる機会があるので、その際に説明に加えたいと思います。まずは知らせることから始めたいと思います。

■事務局

続きまして、事務局からの連絡事項としまして、次回の本審議会の開催についてでございます。

次回の会議につきましては、今後のスケジュールの関係から12月末頃を目途に開催したいと考えておりますので、今日ご記入をいただくか、後日ご連絡をお願いします。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

■事務局

会長、ありがとうございました。以上で、第52回亀岡市循環型社会推進審議会を閉会させていただきます。皆様、ありがとうございました。

(閉会)

以上